

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成29年11月2日(2017.11.2)

【公開番号】特開2016-139478(P2016-139478A)

【公開日】平成28年8月4日(2016.8.4)

【年通号数】公開・登録公報2016-046

【出願番号】特願2015-12358(P2015-12358)

【国際特許分類】

H 0 1 R 13/64 (2006.01)

H 0 1 R 13/24 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 13/64

H 0 1 R 13/24

【手続補正書】

【提出日】平成29年9月22日(2017.9.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 2】

図 3 及び図 4 に示されるように、第 1 規定部 1 4 4 は、横方向において各側部 1 4 0 の内側に形成されている。具体的には、各側部 1 4 0 の内壁は、横方向において外側に向けて凹んでいる。その凹部の上内面が第 1 規定部 1 4 4 として機能している。第 1 規定部 1 4 4 の機能については、可動部材 3 0 0 についての説明において併せて説明する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

図 5 に示されるように、各コンタクト 2 0 0 は、被保持部 2 1 0 と、バネ部 2 2 0 と、接触部 2 3 0 と、支持部 2 4 0 とを有している。図 2 に示されるように、被保持部 2 1 0 は、保持部材 1 0 0 の保持部 1 3 4 に保持されている。図 2 及び図 5 に示されるように、バネ部 2 2 0 は、被保持部 2 1 0 から延びている。バネ部 2 2 0 は、弾性変形可能であり、バネ性を有している。接触部 2 3 0 と支持部 2 4 0 は、バネ部 2 2 0 により少なくとも上下方向に移動可能となるように支持されている。本実施の形態において、バネ部 2 2 0 と支持部 2 4 0 とは、後述するように、可動部材 3 0 0 を上下方向に移動可能となるように支持する支持部材 2 5 0 を構成している。換言すると、本実施の形態の支持部材 2 5 0 は、コンタクト 2 0 0 の一部として形成されている。